

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
心理学	1	1	前期	大学教員	美作大学 教授	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する <input type="radio"/> 該当しない <input checked="" type="radio"/>				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	なし		
概要	自分自身の心理を理解すると共に患者の行動、性格、情緒などを理解するための理論を学ぶ。 医療の臨床場面において医療チームの連携のもとに看護の対象に心理学を活用できる。						
目標	自分自身のことを反省的に考える。 他の人を理解する助けになる程度に法則や個人差を理解する。						
回数	授業内容・計画						
1	・情動について						
2	・情動について						
3	・覚醒水準と情動						
4	・2者関係						
5	・ストレス						
6	・ストレス						
7	・選択的抽出						
8	・プライド・2分割思考						
9	・認知の否認						
10	・習慣形成						
11	・罰、モデリング、人格						
12	・性格5要因説、人格						
13	・人格						
14	・社会的相互作用						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
哲学	1	1	前期	元高等専門学校 教員	/	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する <input type="radio"/> 該当しない <input checked="" type="radio"/>				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	筆記試験			教科書・ 参考資料	哲学入門以前		
概要	人としてなすべきこと、行為の善悪を判断する基準を学び、行動欲求の規範となるものへの理解を深め、完成された人格に近づくための生き方の示唆と職業人として守るべき倫理観を身につける。						
目標	看護師としての責任を自覚する能力を身につける。						
回数	授業内容・計画						
1	・哲学の誕生について						
2	・ソクラテス						
3	・ベンジャミン・ソクラテス						
4	・生成と消滅						
5	・思考において自身を方向づけること						
6	・カントについて						
7	・命題						
8	・命題						
9	・対話						
10	・論理哲学論考						
11	・デカルトについて						
12	・デカルトについて						
13	・カスト						
14	・ベンヤミン						
15	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
情報科学 I (情報処理の基礎)	1	1	前期	元公立学校 教員	/	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式(50)% ・ 実習など講義形式以外(50)%			
評価 方法	実技試験			教科書・ 参考資料	よく分かるシリーズExcel2021応用 情報モラル&情報セキュリティ		
概要	<p>情報通信技術(ICT:information and communication technology)を活用するため以下の基礎を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン等電子機器の取り扱い ・情報活用能力(Word EXCEL PowerPoint) ・情報モラル&情報セキュリティ ・看護における情報システム 						
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・Word PowerPoint EXCELの機能を理解し操作することができる ・医療情報の管理に関するモラル・セキュリティを理解し使用することができる ・医療現場でICTをどのように活用しているかを理解できる 						
回数	授業内容・計画						
1・2	医療情報総論—パソコンの基本操作と電子カルテの基礎						
3・4	情報活用方法—WordとPowerPointの操作						
5・6	情報活用方法—EXCELの操作(表の活用)						
7・8	情報活用方法—EXCELの操作(グラフの活用)						
9・10	情報活用方法—EXCELの操作						
11・12	事例から学ぶ情報モラル・セキュリティ① 個人情報の取り扱い デジタル時代の著作権 ネット社会に潜む危険						
13・14	事例から学ぶ情報モラル・セキュリティ② Web上のコミュニケーション						
15	電子カルテの取り扱い 電子カルテの実際(訪問看護や他職種連携・遠隔診療)						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
情報科学Ⅱ (統計処理)	1	2	前期	元公立学校 教員	/	非常勤講師	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する <input type="radio"/> 該当しない <input checked="" type="radio"/>				講義形式(100)%・実習など講義形式以外()%			
評価 方法	試験80%、レポート10%、学習意欲10%			教科書・ 参考資料	講義内容と演習をとりまとめたプリントを使用します。 参考文献;看護師国家試験過去問題 看護計算ドリル第2版(照林社) 改訂版 チャート式 基礎と演習 数学I(数研出版)		
概要	<ul style="list-style-type: none"> 統計学の基礎を学習し、医療看護に関わるデータ分析に役立たせる。 割合、比例式、濃度について確認し、看護師国家試験の看護計算問題に対応できる計算力を身に付けさせる。 						
目標	<ul style="list-style-type: none"> 医療看護に関わる多数のデータを統計的に分析できる基礎知識が身に付く。 点滴の計算、注射薬の濃度、薬液の希釈等看護に必要な計算力が身に付く。 						
回数	授業内容・計画						
1	学力確認テスト、年間授業説明、データの整理、統計のグラフの種類、データの代表値						
2	データの散らばり、分散と標準偏差						
3	散布図、相関係数						
4	単位、割合、比例式、濃度の確認						
5	点滴の計算、輸液ポンプの計算、注射薬の濃度、希釈液の計算、酸素ボンベの計算						
6	看護師国家試験過去問攻略、確認テスト						
7	看護計算・統計基礎演習問題						
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
人間関係論 I (対人関係における基礎知識)	1	1	前期	元看護教員	/	非常勤講師	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式(50)% ・ 実習など講義形式以外(50)%			
評価 方法	理解度チェック, 提出物, 出席状況, 授業態度, 終講試験			教科書・ 参考資料	人間関係論(医学書院) 基礎看護学(金原出版) その他の資料		
概要	人権の尊重を基盤とし、看護師としてまた一人の人間として人間関係を形成する能力を養うことを目的とする。 そのために必要な基礎知識や技術を習得する。						
目標	1.人間関係を理解するための基礎となる心理学の概念や理論について学ぶ 2.人間関係を作る理論と技法について学ぶ 3.保健医療における人間関係について学ぶ						
回数	授業内容・計画						
1	学習目標と学習内容の理解 人間関係論の学習目的や意義について知る 人間関係論とは 自己認知、対人認知について、エリクソンの発達課題、交流分析(エゴグラム)						(講義、演習)
2	人間関係を形成するために最も基本的な手段である「コミュニケーション」について コミュニケーションの意義重要性について 看護師としての専門的なコミュニケーションとは						(講義、演習)
3	「傾聴」について						(講義、演習)
4	「カウンセリング」、「傾聴」について (来談者中心療法)						(講義)
5	「カウンセリング」その1						(演習)
6	医療におけるチームと看護師の役割について チームワークとチームエラーについて チームにおけるコミュニケーションエラーとその予防について						(講義)
7	アサーティブコミュニケーションについて 学習したこと(1~6回)の振り返り						(講義、演習)
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	実務経験		担当者氏名	担当時間数
				職種	役職		
人間関係論Ⅱ (実践の振り返り)	1	1	後期	臨床心理士	津山中央病院 臨床心理士	非常勤講師	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
○該当する ・ 該当しない				講義形式(30)% ・ 実習など講義形式以外(70)%			
評価方法	理解度チェック, 提出物, 出席状況, 授業態度, ◎終講試験評価方法			教科書・ 参考資料	人間関係論(医学書院) 基礎看護学(金原出版) その他の資料		
概要	人間関係論Ⅱでは、看護実践(基礎看護学実習)の振り返りから、自己の認知傾向を知り課題を見出すことを目的とする。方法として演習(ロールプレイ)を通して実習経験を振り返り、自己のコミュニケーションが患者中心であったか、倫理的視点があったか等、振り返る。これらのことから、対象を中心とした看護を提供するために必要となるコミュニケーション能力を強化する。また、学生は人間関係の中でストレスを抱えやすい。個々にストレスマネジメントを行い、生活の中で活かせるよう学ぶ。						
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の立場にたち倫理にもとづくコミュニケーションをとることができる 2. 実習経験(基礎Ⅰ)を振り返り、演習を通して自己のコミュニケーションの課題に気づき課題を見いだせる 3. ストレスマネジメントを学び、対人を含む環境ストレスへの対処方法を知り活用できる 						
回数	授業内容・計画						
1	ワークシートを用いて自己理解を深める (講義、演習)						
2	講義、演習を通して自身の認知傾向を知る (講義、演習)						
3	ソーシャルスキルを学ぶ (講義)						
4	ロールプレイを通して「聞く」練習をする (講義、演習)						
5 6	コミュニケーションスキルについて学び、演習を通して実践する (演習)						
7	ストレスとストレスマネジメントについて学び、セルフケアについて考える (講義)						
8	終講試験						
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
教育学	1	2	後期	大学教員	美作大学短期大学部 教授	非常勤講師	30
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する ○ 該当しない				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	終講試験(60%)・レポート(30%)・受講態度(10%)			教科書・ 参考資料	授業時に配布する。		
概要	人の成長過程と社会生活における教育の有り様の歴史と現在に向き合うなかで問題点と課題を考える。						
目標	人の育ちと生活と人生において「教育」はどのように意味づけられているのか。「教育」という言葉が用いられる機会・場面・局面ごとにその「意味づけ」を考えてみるようになりたい。						
回数	授業内容・計画						
1	「教育」を考える		教育とは何か				
2			子どもはどのように扱われてきたのだろうか(西洋の事例をもとに)				
3	子ども観(人間観)の歴史		子どもはどのように扱われてきたのだろうか(日本の事例をもとに)				
4			子ども観(人間観)の転換とその意味				
5			成長と発達				
6	育ちと分化		ものの考え方(知能の発達と育ちと社会生活)				
7			ことばの獲得(言語の発達と育ちと社会生活)				
8			遊びについて(遊びの意味/子どもの遊びの特徴/遊びの人間)				
9			戦前の教育				
10			戦後の教育				
11	権利保障と教育		義務教育の意味と構図				
12			育ちと生活の条件整備および関係法規の運用				
13			権利保障へのあゆみの現在				
14	教育学の組み立て		教育と教育学(まとめ)				
15			終講試験				
留意事項							

授業科目	単位数	学年	期間	担当講師			担当 時間数
				職種	役職	氏名	
生活科学	1	1	後期	大学教員	美作大学大学院 教授	非常勤講師	15
実務経験のある教員等による授業科目(いずれかに○印)				授業形態(全授業時間に対する割合)			
該当する <input type="radio"/> 該当しない <input checked="" type="radio"/>				講義形式(100)% ・ 実習など講義形式以外()%			
評価 方法	出席状況, 筆記試験			教科書・ 参考資料	授業時にプリント配布		
概要	生活全般における人と環境との関わりを生活科学的視点から概説し、家庭生活が人間生活に果たす役割について食生活面から多面的に考察する。						
目標	よりよく生活するために必要なものを追求していくために、まずは自分の日々の生活の今をみつめ、日常を実感する対象として積み重ねる生活者姿勢を習得する。						
回数	授業内容・計画						
1	「食生活の変遷」到達目標:日本人の食生活の変遷を理解する。						
2	「食生活の文化的機能」到達目標:地域の伝統料理や郷土料理について知る。						
3	「食品の生理機能」到達目標:食品の持つ機能性を知り、様々な食品の特性を知る。						
4	「食品の加工技術」到達目標:食品に関する様々な加工技術を知り、食品保蔵の意義を学ぶ。						
5	「機能性食品」到達目標:トクホ食品や健康食品に関する日本の制度と実態を知る。						
6	「食品衛生法」到達目標:飲食に起因する衛生上の危害発生に関して学び、健康保護の手段を理解する。						
7	「栄養素摂取状況と健康状態」到達目標:日本の栄養摂取量を評価し、職業に関連する健康障害について理解する。						
8	終講試験						
留意事項							